

## 目次

- 平成18年度郷土資料館事業報告 ————— 2
- 文化財巡りツアー「秘仏を訪ねる」 県指定「木造観世音菩薩坐像」公開！ ——— 3
- 平成18年度埋蔵文化財調査の概要 ————— 4
- 遺跡紹介 「曾根遺跡」 ————— 5
- 市史編さん報告 新修豊田市史編さん事業スタート ————— 6
- 発見館からのお知らせ 平成18年度事業報告と平成19年度予定事業紹介 — 7
- 文化財シリーズ60・資料館 NEWS ————— 8



糸のぼりおもちゃ作り



豊田市近代の産業とくらし発見館



葉脈めっき講座



とよた発見講座

# 平成18年度郷土資料館事業報告

## 【文化財保護事務】

### 1 文化財保護審議会

審議会開催(5回) 旧町村地区指定文化財視察(藤岡、下山地区)、研修(重要伝統的建造物群保存地区・美濃市)

指定諮問4件、文化財防火訓練指導

### 2 埋蔵文化財

別掲

### 3 登録文化財

名古屋鉄道三河線旧広瀬、西中金駅(駅舎・プラットフォーム)登録申請

### 4 文化財等保存維持補助事業

史跡名勝天然記念物維持1件(シダレザクラ・金剛寺)、有形文化財保存修理1件(絹本着色多聞天像・長興寺)、有形民俗文化財修理3団体(山車・喜多町、東町、平井)、有形民俗文化財維持16団体(山車)、無形民俗文化財保存維持22団体(囃し・棒の手)、伝統的郷土芸能保存維持15団体、伝統的郷土芸能保存修理1団体(山中祭り太鼓)、郷土の偉人顕彰活動5団体、建造物維持管理1団体(足助八幡宮)、地域無形民俗文化財11団体(綾渡夜念仏と盆踊り他) 総数 76団体

### 5 史跡整備

史跡標柱設置(熊野ヶ松伝承地)、百々貯木場跡整備計画検討会議

## 【郷土資料館事務】

### 1 展示

特別展「新・豊田の文化財展」	10月28日～11月26日	2,350人
企画展「須藤しげる」展	7月29日～9月3日	1,732人
企画展「籠川流域の遺跡群」	2月24日～4月1日	1,780人
年間入館者数		14,023人

### 2 資料調査

昭和史資料調査(補足)、豊田市史編さん調査、とよたの祭事記録(足助祭り)、歴史的建造物調査4件、とよたの歌、矢作川河床埋没林調査(3月18日現地説明会)



堂外戸遺跡調査 現地説明会

### 3 資料収集・複製

鈴木正三書幅複製、延暦十二年拳母郷銘瓦複製  
購入資料・渡辺半蔵家分限帳、須藤しげる作品18点、宇都宮三郎関係資料

### 4 講座

歴史体験講座開催(鎧・姫衣装の試着、勾玉・土偶・織物製作、ミニ門松・花もち作り、おこしもの作り、史跡めぐり等)11講座 参加者 532人  
博物館館務実習受入れ(9月)  
西三河地方史連絡協議会研究発表大会(11月・崇化館交流館)、近畿・北陸・東海民俗芸能大会出演(津市・銭太鼓保存会)

## 【近代の産業とくらし発見館事業】

別掲



矢作川河床埋没林調査 現地説明会

## 県指定「木造観世音菩薩坐像」公開！

平成19年5月8日、豊田市五反田町(足助地区)にある昌全寺の愛知県指定文化財「木造観世音菩薩坐像」が、17年ぶりに公開されました。これにともない、文化財に親しむため文化財を巡るツアーを実施しました。ここでは見学した文化財を紹介します。

○「木造観世音菩薩坐像」(県指定文化財・彫刻)



この観音像は、頭部は宝髻を結び天冠台を彫り出しています。祭帛や天衣で身を飾り結跏趺坐しています。手は胸前で左手に未開の蓮華を持ち、右手でその花びらを開こうとする形です。

像は(榿 桧という説もあり)の一材から彫り出し、脚部などは別材で造られています。眼は彫られ素地仕上げで、白毫は水晶をはめ込んでいます。そのため像を見ると素地の木目が美しく落ち着いた表情を感じる事ができます。

像高121.8cmで根幹部分を一材で掘り出し脚部、手は別材で造られています。また銅製の宝冠・瓔珞は、後の時代のものです。

製作年代は12世紀末と考えられています。これは同じ足助地区の綾渡町平勝寺に伝わる「木造観音菩薩坐像」(重要文化財・平治元(1159)年銘)と印相、着衣の形状、衣文の構図などが大変よく似ている事によります。そのため同系の仏師の製作によるのではないかともいわれています。

見学会では昌全寺のご住職から縁起「大慈閣記」につ

いてご紹介があり、朝廷との関わりや、鎌倉時代には源頼朝が参詣したという伝承を聞き、山里に残された歴史の深さを知るとともに貴重な遺産をあらためて認識する事ができました。

○「木造阿弥陀如来坐像」(市指定文化財・彫刻)

この仏像は二重円光の千仏光背を持つ阿弥陀如来像です。製作年代は顔部分が12世紀末で、髑部が17世紀前半、台座は17世紀末～18世紀の製作と考えられています。髑部背面に小さな孔があり数多くの祈願主などを書いた小紙片が納められています。



仏像のある浄雲寺(霧山町)は、もと京都府岩倉村にあったものを明治31年に寺号・本尊仏をそのまま移して創建したお寺です。穏やかな面持ちの美しい仏像は、小さな化仏が一面に取り付けられた光背を背に、見るものを圧倒するほどの威厳を感じさせます。

文化財巡りツアーは、ほかに大鷲院(新盛町)の裏山一体に広がる磨崖仏を見学しました。明治20年頃に彫られたもので、大きさ20cmから40cmほどの弘法大師像、



観音像を各所に見る事ができます。

参加者は初めて見る文化財に、驚き満足された様子でした。

(伊藤智子)

# 平成18年度埋蔵文化財調査の概要

## ○有無の照会

住宅建設や宅地造成、事業用建物の建設、開発の事前調査、不動産鑑定など各種の開発に伴い文化財課へ埋蔵文化財の有無が照会されます。H18年度の照会は568件あり、前年度よりも236件も増加しました。このうち遺跡(埋蔵文化財包蔵地)に該当したものは170件でした。地区別では表1のような内訳となっています。昨年度に較べて猿投地区が減少し、高橋・上郷地区の増加がめだっています。

【表1】

地区	猿投	拳母	高橋	松平	高岡	上郷
件数	16	49	44	2	1	26
地区	藤岡	小原	足助	下山	旭	稲武
件数	7	3	16	3	0	3

## ○届出

遺跡内での開発には文化財保護法により届出が必要です。H18年度は民間開発事業で52件(前年比+8)、公共事業で10件(前年比+5)ありました。

【表2】

地区	件数	主な遺跡
猿投	9	伊保遺跡、亀首遺跡、上原遺跡
拳母	15	桜城跡、梅坪遺跡、瑞穂遺跡、七州城跡
高橋	18	高橋遺跡、寺部城関連遺跡
松平	1	
高岡	1	
上郷	8	神明遺跡、郷上遺跡
藤岡	2	深見1号墳
小原	0	
足助	8	井ノ口城跡、栃ノ実遺跡、北貝戸遺跡
下山	1	
旭	0	
稲武	0	
計	62	

地区別の内訳は表2のとおりです。拳母地区・高橋地区・猿投地区に偏っていますが、上郷地区・足助地区でも増加しています。遺跡別では拳母地区の瑞穂遺跡、高橋地区の高橋遺跡・寺部城関連遺跡での届出が多く、かなり偏っています。また、事業別の内訳は民間開発のうち半数が個人住宅の建設・建替えによるもので、ほかに共同住宅の建設、事業系建物の建設、通信塔の建設などがありました。公共事業では道路工事、

【表3】

	慎重 工事	工事 立会	確認 調査	本調査	その他	計
民間	2	39	8	3		52
公共		8		2		10

治山、公園整備などによるものでした。これらへの対応は表3のとおりです。また、表4は調査を実施した遺跡についての概要です。

【表4】

遺跡名 (所在地)	調査 区分	調査期間	調査 面積	主な遺構
梅坪遺跡 (東梅坪町3)	確認	5/15	34㎡	溝
向山古墓 (本徳町向山)	確認	6/27	20㎡	
神明遺跡 (鴛鴨町神明)	確認	7/11-12	8㎡	
拳母城(桜城)跡 (元城町1)	確認	7/26	3㎡	
堂外戸遺跡 (市木町沖田)	試掘	8/9	7.5㎡	
高橋遺跡 (高上2)	本調査	7/31-8/10	70㎡	竪穴建物
高橋遺跡 (上野町6)	確認	12/18	28㎡	
上栃ノ実遺跡 (則定町上栃ノ実)	確認	2/19-20	13.5㎡	
亀首遺跡 (舞木町神子造)	確認	3/26	26㎡	
神明遺跡 (鴛鴨町神明)	本調査	3/2-27	126㎡	竪穴建物 土坑
神明遺跡 (鴛鴨町神明)	本調査	5/22-6/14	71㎡	竪穴建物 土坑、溝
拳母城(七州城)跡 (小坂本町8)	本調査	7/19-12/18	173㎡	礎石列
拳母城(七州城)跡 (小坂本町8)	本調査	9/25-10/20	382㎡	土坑、溝
栃原遺跡 (東山町2)	確認	11/16-22	217㎡	土坑、溝
堂外戸遺跡 (市木町堂外戸)	本調査	4/3-3/30	5700㎡	竪穴建物 土坑、溝
曾根遺跡 (森町)	史跡 整備	11/21-22	2㎡	
千石遺跡・不動 堂館跡ほか (千石町・上野町)	試掘 確認	1/10-3/15	308.5㎡	土坑、溝

[上段10遺跡は国庫補助対象]

この他、届出のない電柱やガス管の敷設など軽微な工事に伴う立会いが数十件ありました。(杉浦 裕幸)

豊田市には多くの縄文時代の遺跡があります。平成17年の市町村合併後、豊田市の総遺跡数は合併前(509遺跡)から2倍以上の約1,150遺跡に急増しました。特に縄文時代は増加が顕著で、7倍近い339遺跡に増えました。これは、縄文時代遺跡の多い旭町・足助町・稲武町が市域に加わったため、豊田市は、愛知県内でも縄文時代の文化財が豊かな地域に一変しました。



曾根遺跡公園の位置

ここで紹介する市指定史跡 曾根遺跡公園は、縄文人の生活に触れることができるモデルハウスのような場所です。昭和47年に発掘調査され、約4,000年前(縄文時代中期後半)の縄文人が居住した2軒の住居と、彼らが使用した土器と石器が出土しました。

住居跡は竪穴住居と呼ばれるもので、地面に長径約5m程度、深さ約0.5mの穴を掘り、住居の床を作り出しています。床には柱穴を掘り、柱を建て屋根を設けました。床の中央は炉で、穴の内面は熱で硬くなっています。公園では、発掘したそのままの姿の遺構のほか、屋根組を復元した住居も見ることができます。



発掘された竪穴住居跡

この2軒の住居は、発掘調査の結果、西側のものが古く、それが埋まった後に東側の新しいものを作ったことがわかっています。発見されている住居は少ないものの、継続的に居住された集落の可能性もあります。

住居跡からは渦巻状の謎めいた文様をもつ深鉢形土器(器高の高い鉢)、主食となる木の實の殻を割り、実を磨り潰すことに適した石皿と磨石、木の伐採・加工



曾根遺跡の出土遺物(館蔵)

に適した石斧が出土しています。また、住居の奥壁にもたれかかる状態で、男性器を模した石製の信仰のシンボルである石棒が出土しています。これらは郷土資料館でその姿を見ることができます。

公園内には、かつて志賀町に所在し、発掘調査された後に移設復元された、香久礼1号墳が展示されています。また隣接して、市域最大規模の八柱社古墳が所在します。

公園からは壮麗な豊田スタジアムが一望できます。サッカー観戦のついでにぜひ公園にも足を運び、原始と現代の建造物の対比を楽しんでください。



復元住居と豊田スタジアム

(高橋 健太郎)



# 新修豊田市史の編さん事業スタート

平成19年2月2日に開催された第1回新修豊田市史編さん委員会にて『新修豊田市史編さん計画』が承認され、新たな豊田市史編さんに向けての事業がスタートしました。

そこで、この新修豊田市史編さん計画について概要を紹介します。

## ○新たな市史編さんの背景とねらい

豊田市では、『豊田市史』を昭和51年から昭和62年までに12巻(13冊)を刊行しましたが、第1巻の刊行からすでに30年以上が経過しており、この間には著しい地方史研究の進展がみられるとともに市民の方々の歴史に対する関心が高まってきています。

平成17年4月の合併により、地域の広域化とともに、地域の歴史や伝統的文化に対する関心が高まりつつあり、合併により広域化した地域に住む市民にとって地域を越えた市民共通の歴史書が必要となってきました。

同時に21世紀を迎え、市民を取り巻く自然環境あるいは社会的構造等の変化を的確に理解し、現状を正確に記録して次の世代に確実に伝えていく責務があるといえます。

そこで、前回の『豊田市史』での足りないところを補い、新たな資料を加えて『新修豊田市史』の編さん事業を進めることとしました。

## ○編さんの目標

次の3項目を編さん事業における目標として取り組んでいきます。

- ①市民にわかりやすく、親しみのもてる、利用しやすく、そして内容の充実した市史を刊行すること。
- ②より多くの市民が、豊田市の歴史について理解と関心を高めることのできる市史の編さん活動を行うこと。
- ③平成22年度の市制施行60周年に概要版を発刊し、平成32年度までに全巻を刊行させるとともに、市史編さん事業において収集した資料の保存と活用の体制を整えること。

## ○名称及び編成

名称は、『新修豊田市史』とします。

編成は、本編5巻、資料編12巻、別巻7巻、概要版1巻の計25巻とします。

本の体裁は、原則としてA5版としますが、記載する内容により他のサイズも取り入れていきます。

## ○事業年度及び刊行計画

事業年度は、平成18年度から平成32年度までの15年間とします。

平成22年度から発刊を開始し、平成32年度の総集編の発刊をもってすべての刊行を終了させる計画とし、毎年度2～3巻を発刊します。

## ○編さん体制

編さんを進めるための組織と役割を次のように定め、事業を進めていきます。

### ① 編さん委員会

委員16名以内で構成し、編さんの基本方針等について審議し、決定します。

### ② 専門委員会

部会長及び相談役の11名以内で構成し、執筆、編集等編さんに関する専門的事項について審議し、決定します。

### ③ 部会(原始、古代・中世、近世、近代、現代、自然、民俗、美術・工芸、建築、概要版の10部会)

執筆委員、執筆協力員、調査協力員、地区協力員により構成し、それぞれの担当部会に関する調査・研究、執筆、編集等、内容作成に関することを行います。

### ④ 事務局

市史編さんに関する庶務、予算執行等に関する事務を行います。

## ○問合せ・連絡先

平成19年4月から新修豊田市史編さん事務室を旧図書館内に設け、事務を行っています。

(連絡先)

電話 (0565) 36-0570

FAX (0565) 31-0162

E-mail toyosisi@hm9.aitai.ne.jp

郵便物は豊田市郷土資料館宛でお願いします

(池野 修央)

## 発見館からのお知らせ

# 平成18年度事業報告と平成19年度予定事業紹介

豊田市近代の産業とくらし発見館(通称「発見館」)は、平成17年11月の開館以来「近代から「とよた」を発見する」を標語に掲げ、豊田市全域を展示室としたエコミュージアムの拠点施設として活動しています。昨年度中には4回の企画展をはじめ「とよた発見講座」など各種講座を開催しました。

### (平成18年度開催事業等)

#### 企画展

「市域の瓦づくり」

(期間：平成18年4月29日～7月9日、来館者数1,603人)

「くらしの中のクルマのかたち」

(期間：7月22日～9月24日、来館者数2,233人)

「宇都宮三郎最初の近代技術者になったサムライ」

(期間：10月24日～12月24日、来館者数1,142人)

「ガラ紡 綿と糸がつなぐ世界」

(期間：平成19年1月30日～3月25日、来館者数1,446人)

#### 講座等(開催順・主催のみ)

まゆ玉ワンちゃんづくり／鋳造でつくるキーホルダー／糸のぼりおもちゃづくり／ミニチュア瓦づくり(企画展関連)／かくれんぼ動物カー／みがき砂で磨こう!／葉脈めつき講座(企画展関連)／繭でつくる干支のイノシシ／講演会「ガラ紡がつなぐ世界」(企画展関連)／とよた発見講座「近代建築の愉しみ」／見学会「ガラ紡のふるさとを訪ねる」(企画展関連)

発見館の施設自体は小規模ですが、各企画とも様々な角度から楽しんでいただけるように工夫をしています。また出前講座等、館外での活動も展開しています。発見館の活動に対する多くの方々からのご協力もいただき、昨年度は来館者8,413人(開館以来11,441人)を数えました。

平成19年度も「気付けば面白い」豊田市の地域的な特色を、近代の産業とくらしから発見していただくための様々な催しを計画しています。現在のところ企画展3回のほか、各種講座等を月1回以上の割合で開催す

る予定です。開催行事の情報は発見館のホームページやブログ、豊田市の広報などを通じてその都度お知らせしますので、是非ご参加ください。

### (平成19年度開催予定事業)

#### 企画展

##### ①「加茂蚕糸 大煙突の下で

養蚕・製糸のまち「挙母」のおもいで

期間：平成19年5月29日(火)～7月29日(日)

内容：豊田市域の製糸業の中心的存在であった製糸工場「加茂蚕糸」の歴史やそこで働く女性たちの様子を、残された貴重な資料を通して紹介し、養蚕・製糸のまちであった挙母の姿を振り返ります。

#### 関連行事等

見学会：養蚕農家を見てみよう! 6月17日(日)

講座：絹の古布の針刺し作り 7月8日(日)

繭から糸繰り 7月22日(日)

##### ②「近代の交通 矢作川の橋梁(仮)」

期間：平成19年10月2日～11月16日

内容等：未定

##### ③「用水の開削(仮)」

期間：平成20年1月29日～3月23日

内容等：未定

#### その他講座等

モノづくり体験講座(4・5月・終了)／鉄製水車のオブジェをつくらう(8月頃)／人造石をつくる(9月頃)／近代化遺産見学会(10・11・3月)／まゆ玉干支飾りづくり(12月)／とよた発見講座(1月)／その他(随時)

\*企画展関連行事および講座等への参加は要予約・有料となりますので、詳細については発見館へお問合せください。

(天野 博之)

発見館の最新情報はこちらから⇒

ホームページ：[www.toyota-hakken.com/](http://www.toyota-hakken.com/)

ブログ：[www.toyota-hakken.at.webry.info/](http://www.toyota-hakken.at.webry.info/)

問合せ先(発見館)

電話 0565 33-0301 / F A X(0565) 33-0319

E-mail: [hakken@city.toyota.aichi.jp](mailto:hakken@city.toyota.aichi.jp)

## 文化財シリーズ

60

### 棒の手 県指定無形民俗文化財

棒の手は、6尺(1.8m)ほどの檜の棒や木刀を用いた武術です。この地方では「馬の塔」「おまんとう」といわれる献馬が古くから行われてきましたが、「けんか祭」「警固祭」といわれるほど荒っぽいものでした。実際に拳母と小原の喧嘩では死人も出たことが猿投神社の古文書にもあり、自分たちの村の馬を守る重要な役割として棒の手や火縄銃がこれにあたりました。

猿投祭の最盛期には、三河を始め尾張、美濃の村々から献馬が行われていましたが、祭の安全と秩序を保つため、数か村が固まって行動する「合宿」という形態が生まれ、棒の手は馬の警護から五穀豊穡を祈願する芸能として神社に奉納されることとなりました。

他の伝統芸能と同じく、棒の手も明治時代末期のころから衰退し、戦後にはほとんど演じられないような状態となってしまいました。しかしながら各地で継承の気運が高まり、昭和30年代前半に棒の手が県無形民俗文化財の指定を受けます。市内では宮口、松平、猿投、足助、藤岡、旭地区で現在も継承され、各地の神社へ奉納したりイベントへ出演するなどの活躍を見せています。



豊田の棒の手県指定50周年記念事業が11月4日(日)に猿投神社、猿投棒の手ふれあい広場で開催されます

## 資料館NEWS

### 資料館で過ごす「こどもの日」

4月28日(土)から5月6日(日)まで資料館で過ごす「こどもの日」を開催し、市民から寄贈された五月人形を展示しました。子どもたちは明治～昭和初期につくられた豊臣秀吉や武田信玄などの武者人形をめずらしそうに見ていました。また28日には「よろいをきてみよう!」を開催し、約250名が参加しました。これは、鎌倉時代と戦国時代の鎧(レプリカ)と姫の衣装を試着できるというものです。

鎧かぶとを身にまとった子どもたちは武士の気分を味わっていました。



### 企画展「地下に埋もれた縄文の森-矢作川河床埋没林-」

開催期日 7月28日(土)から9月2日(日)

平成17年度から18年度に調査、分析を行った矢作川河床埋没林の調査成果を紹介します。

### 第1展示室閉鎖のお知らせ

修繕工事のため6月5日(火)から7月27日(金)まで閉鎖します。

## 利用案内

開館時間 9:00～17:00

休館日 毎週月曜日(祝祭日は開館)、年末年始

入場料 無料(特別展開催中は有料)

交通 名鉄「梅坪駅」より南へ 徒歩10分

名鉄「豊田市駅」より北へ 徒歩15分

愛知環状鉄道「新豊田駅」より北へ 徒歩15分

駐車場 約20台

## ■豊田市郷土資料館だより No.60■

平成19年5月28日発行

編集・発行 豊田市郷土資料館

〒471-0079 豊田市陣中町1-21

☎(0565)32-6561 FAX(0565)34-0095

E-mail: rekihaku@city.toyota.aichi.jp

URL: <http://www.toyota-rekihaku.com>

※豊田市郷土資料館だよりはHPでもご覧になれます。